

そう だい
総 題 「永遠の命」

だいいっか かんぜん う ちゅう はんぎやく
第1課 完全な宇宙における※1反逆

いちはんぎやく じぶん ただ い かみ したが
※1反逆：自分は正しいと言って（神さま）に従わないこと

いとうひろし
伊藤裕史

はじめに

こんきわたし えいえん いのち まな かみ そうぞう せかい つみ し はい せかい
今期私たちは「永遠の命」について学びます。神が創造された世界に罪と死が入ることで、この世界のいろ
いろなところで悲しみが広がっています。でもその悲しみは私たちが「死」の本当の姿を知らないために不安に
なったり、自分でまちがった希望を作り上げているからです。今期はこの「死」に向き合うことで、聖書の中に示
されている神の姿と与えられる希望「永遠の命」を学んでいきましょう。

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

さいしょ し あく まな あく
最初に「死」をつくった「悪」のはじまりについて学んでいきます。この悪のはじまりについていろいろなことが
い せいしよ ひと あく かんけい も かみ せかい そうぞう とき だらく
言われていますが、聖書は人が悪と関係を持ったのは神が世界を創造された時、つまりアダムとエバの※2墮落の
とき だらく まえ あく せんざい
時だといっています。そうであるならば、この墮落の前に悪は存在していたこととなります。それはいつなのでし
ょうか。

に だらく ただ みち あゆ あく みち お
※2墮落：正しい道が歩めなくなって悪の道に落ちること

に にちようび あい ひょうげん そうぞう
2. 日曜日：愛の表現としての創造

かみ せかい よ そうせいきいっしょう わたし み よ
神がつけられた世界は「良かった」（創世記1章）のです。しかし私たちのまわりを見てみると「良い」もの
と「悪い」ものがあるのを見ることができます。どうして「良い」ものに「悪い」ものが入ることになったのでしょ
うか。イエスはたとえの中で「敵の仕業だ」（マタイ 13：28）と言われました。そうです。神がつけられた
この世界に敵が「悪い」ものとして「罪」を入れてきたのです。

ほんとう せかい よ かみ せいしつ かみ せいしつ なか よ
だから本当ならば世界は「良い」神の性質をうつすものであったはずですが。神の性質の中でもっとも「良い」も
のは「神は愛である」（1ヨハネ4：8、16）です。これは愛する相手がいって始めてわかるものであり、ず
っと変わらないすばらしいものです。その愛する相手として私たちがつけられたのです。私たちが神のつけられ
たものであるならば、神やお互いの中で、「良い」ものとしてこの愛を見せていきましょう。

さん げつようび あい き そ じゆういし
3. 月曜日：愛の基礎としての自由意志

「神は愛である」ことから、神は愛され、愛することのできるものをおつくりになりました。愛することはロボットが命じられてするようなものではありません。愛を実現させるためには、自由にえらぶことのできる中で愛することをえらぶことが大切なのです。

皆さんはキャッチボールをしたことがありますか。それと同じです。皆さんは神から愛というボールを受け取っているのです。それでは受け取ったボールを誰に投げるのでしょうか。あなたは投げないこともできますし、することもできます。でも神に投げることも、愛する人に投げることも、自分に悪いことをする人にも投げることもできるのです。大切なのは自分の思いで誰かに投げるができるということなのです。そこに本当の喜びがあるからです。この自分の思いで投げることを大切にするために、神はそのボールが自分に返ってこないこともおゆるしになりました。そしてそこから生まれてくるすべての結果を受けとめることを決めたのです。

神の思いとは違ってそれは罪を生むことになりました。しかし神は決して罪をゆるしたわけではありません。神は罪の結果生まれてくる苦しみをすべて受けとめることも決めておられたのです。

よん かようび しんびてき ぼうおん
4. 火曜日：神秘的な忘恩

エゼキエル書 28章には、神から受け取ったボールを投げ返さなかったルシファーのことが書かれています。天ではだれもが神とキャッチボールをして愛を大きくしていました。ルシファーも最初はそうでした。しかしルシファーは神にばかりボールが投げられていることに不満を感じていたのです。そして神にボールを投げ返すことを忘れ、他の人から自分にボールを集めることだけを考え始めたのです。

完全な存在としてつくられたルシファーがどうしてそんなふうになってしまったのでしょうか。そのすべてを説明することはできません。しかしルシファーが愛するために大切であった自由にえらぶ力を間違っ使ってしまったことは確かでしょう。

ご すいようび こうまん たいか
5. 水曜日：高慢の対面

火曜日にみてきたようにサタンとなったルシファーが自分にボールを集めようとしたことで、聖書の中には2つのグループが生まれました。

- ① 一つは、神からいただいたボールを神に返し、他の人に投げて広げていこうとするグループです。
 - ② もう一つは、サタンを中心に神にボールを返すことをやめ、自分たちにボールを集め、それだけでなく神から人々をひきはなそうとする、神中心でなく自己中心の考えに支配されたグループです。
- 私たちは罪人として生まれ、②のサタンのグループにいました。でも神からボールが投げられていることを知って、②のサタンのグループから出て神といっしょにいること、そして①の神から投げられた愛というボールを愛する人に投げることを広げることを選んだのです。

聖書は②のサタンのグループのつくる世界が長続きしないことを教えています。ダニエル書の大きな金の像で

しめされたバビロン、そしてそこから^{つづ} ^{れきし} ^み 続く歴史を見てください。どんなにすばらしく見えても^み ^{ながつづ} ^{さいご} 長続きせず、最後には^{かみ} ^{ほろ} 神によって滅ぼされてしまうのです。それは^{れきし} ^{なか} 歴史の中のできごとではありません。これから^お ^{せかい} ^{おお} ^{なが} 起こる世界の大きな流れなのです。

ろく もくようび ふしん かくだい 6. 木曜日：不信の拡大

^{すいようび} ^{ふた} 水曜日の2つのグループは、ちょっと^{かんが} ^{かた} 考え方がちがうということで^お ^{もくしろく} ^{ふた} 終わりませんでした。黙示録では2つのグループが^{てん} ^{おお} ^{たたか} 天で大きな戦いをしたとっています。神に^{かみ} ^{ほんたい} ^{せいりよく} 反対する勢力は^{てん} ^{みつか} ^{さんぶん} ^{いち} ^{おお} 天の御使いの3分の1もの大きなものでした。^{てんぜんたい} ^{たたか} ^{かみ} ^{ちじょう} 天全体をまきこんだ戦いが、神のつくられたこの地上にまでひろがったのです。しかし^{じゅうじか} 十字架で^{しめ} ^{かみ} ^{あい} ^{すがた} ^{たたか} ^{かみ} ^{しょうり} ^{けつていき} 示された神の愛、キリストの姿がこの戦いで神の勝利を^{たたか} ^お 決定的なものにしました。それでもまだ戦いは^{わたし} ^お ^{じだい} ^{つづ} ^{いまわたし} ^お 終わっていません。私たちのいる^{わたし} ^お ^{じだい} 終わりの時代においても^{つづ} 続いているのです。今私たちのまわりで^お 起こっているのは、^か 勝つことのできなかつた^{てんし} ^{わたし} ^{かみ} ^お サタンとサタンにしたがった天使たちが、私たちを神から^お ひきはなそうと^お 起こしていることなのです。

なな きんようび けんきゅう 7. 金曜日：さらなる研究

^{かみ} ^{つみ} ^{わたし} ^し ^{いみ} ^{なに} ^{かいけつ} 神はなぜこの罪のはじまりについて私たちに知らせようとされたのでしょうか。もし^{いみ} ^{なに} ^{かいけつ} 意味のないこと、何も解決できないものであれば^し ^{わたし} ^し ^{つみ} ^し ^{かいけつ} 知らせようとはされなかつたでしょう。私たちにとって^{つみ} ^し ^{かいけつ} 知ることが、罪や死を解決するため^{ひつよう} ^{じゅうじか} ^{ほんとう} ^{いみ} ^{りかい} ^{ひつよう} ^い ^{かみ} ^{かいけつ} ^{ほうほう} に必要なものであり、十字架の本当の意味を理解するために^い ^{かみ} ^{かいけつ} ^{ほうほう} 必要だからなのです。言いかえれば神が解決する方法^{わたし} ^{さき} ^{きぼう} ^わ をもっているからであり、私たちが^{わたし} ^{さき} ^{きぼう} ^わ あきらめなくいていゝからであり、その先に希望があるからです。分からない^と ^さ ^{りかい} ^{きぼう} ことからくるおそれを取り去り、しっかり理解することで希望を^と ^さ ^{りかい} ^{きぼう} いただきましょう。

まな ふ かえ しつもん 学びを振り返る質問：

1 ^い ^{かみ} ^な ^{あい} ^{てもと} ^お ^な 神から投げられた愛というボールをあなたはどうしたいですか。手元に置いておきますか。だれかに投げますか。投げるならだれに投げますか。

2 ^に ^ま ^き ^{わたし} ^{ゆうわく} 負けが決まったサタンが私たちを誘惑するのはなぜでしょうか。